

第6回 一般廃棄物最終処分場の候補地選定に係る住民説明会概要

1 日時 令和8年3月29日（土）18:00～19:00

2 場所 下増田公民館 研修室1・2

3 参加者

(1) 市民23名

(2) 名取市

山田市長、小松生活経済部長、朽木環境共創課長、石川環境共創課長補佐、
小山主事、石川主事

株式会社エイト日本技術開発 3名

4 説明事項

- (1) これまでの選定経過について
- (2) 詳細調査の結果について
- (3) 候補予定区域の絞り込みについて
- (4) 第5回住民説明会の補足説明

<質疑応答（要約）>

（1）最終処分場の概要、選定過程などに関する質疑

Q1 候補地に隣接する地権者には同意を得る方向で検討しているのか。

A1 お知らせすることは必要だと考えているが、同意を得るところまでは予定していない。

Q2 津波対策にどれくらい概算整備費が必要になるのか。現時点で検討している内容はあるのか。

A2 検討事項としては、盛り土の高さを上げることも考えられるが、7mの盛り土で津波浸水も考慮した上で十分に耐力のある構造物を整備することは技術的に可能というアドバイスも受けている。そういった対策に、概算で数億円程度の工事費が加算されることは試算している。

- Q 3 東日本大震災の津波では立派な建物も流されてしまった。そのような津波対策はどう考えているのか。
- A 3 現段階では詳細な対策や構造について説明できないが、10mの津波にも耐える構造物を整備することは可能である。今後1カ所に選定したときに具体的にどういった構造物にしていくか、詳細な内容をあらためて説明していきたい。
- Q 4 1カ所に選定してから構造物について検討するという話だが、クローズド型で建設するという点は決まっているのか。
- A 4 市から構造をクローズド型、下水道放流または無放流を前提条件に詳細調査を依頼しているので、クローズド型で整備を進める。
- Q 5 閉鎖後の管理は5年間行うのか。5年の管理を行うことで以後問題ないのか。
- A 5 最終処分場の維持管理を廃止できる状態まで5年間と設定しており、5年の管理後は、基準を満たした水が出てくるという想定をしている。しかし、あくまで想定のためリスクを完全にゼロにすることはできないため、その時点の状況を的確に把握しながら、必要な対応をしていく。
- Q 6 海拔0mに近い場所で、最終処分場を建設した事例はあるのか。
- A 6 直近で詳細調査を行ったコンサルが携わった事例はないが、全国的に同様の事例が全くないわけではない。工事中の地下水は懸念事項の一つであり、適切な対策を講じつつ工事を進めていく必要があると考えている。
- Q 7 建設するにあたって、地下水の問題が1番心配である。技術的に対応する事はできるのか。
- A 7 概算整備費を算出する際に、地下水対策については検討している。現時点で示している図面では3mの掘削を見込んでいるが、具体的な対策については、候補地を1カ所に選定した後に、詳細な内容を改めて説明していきたい。

(2) ご意見として承ったもの

- 意見 1 気仙沼市の最終処分場は閉鎖後に体育館などに利用できるようにしたいという話があり、今後活用できるような施設にしてほしい。
- 回答 1 施設の利活用については、地域の皆様と相談しながら、可能な限り有効に活用していきたい。

意見2 住民は安全面で心配しているので、ダイオキシン等への対応や施設のモニタリングなど充実した設備となるよう整備してほしい。

回答2 愛島にある旧最終処分場の検査は、現在も定期的に行っており、基準値内であることを確認している。また、クローズド型で粉じんや臭いが外に出ない施設とし、将来の利活用も見据えた施設整備となるよう検討していきたい。